

天然記念物の新指定及び史跡の追加指定について

平成30年7月18日
文化財課

1 概要

国の文化審議会（会長 佐藤 信）は、平成30年6月15日（金）に開催された同審議会文化財分科会で審議・議決を経たのち、「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」を天然記念物に指定すること、及び「里見氏城跡 稲村城跡 岡本城跡」について史跡の追加指定をすることを、文部科学大臣に対して答申した。

官報告示の後に正式に指定されることとなり、これによって千葉県内に所在する国の天然記念物は18件（特別天然記念物1件を含む）となる予定である。

2 養老川流域田淵の地磁気逆転地層の天然記念物の指定について

市原市に所在する「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」は、房総半島の急激な地殻変動と養老川の侵食作用によって露出した、第四紀前期更新世及び中期更新世の境界付近の地層で、地磁気逆転の記録が良好に保存されている。

約77万年前に、古期御嶽山の噴火によって飛来・堆積した火山灰（白尾火山灰（Byk-E））が地磁気逆転境界付近に堆積しており、本地層は地質時代境界の年代を特定する上で重要である。

これらの一連の地層が露頭壁面に現れ、火山灰層によって視覚的に確認できることや、陸海両方の化石が産出し環境の変化を知ることができることなど、学術上価値が高いことから天然記念物に指定される。

3 史跡 里見氏城跡 稲村城跡 岡本城跡の追加指定について

史跡里見氏城跡は房総半島南部を治めた戦国大名里見氏の拠点となった城跡群である。館山市に所在する稲村城跡は16世紀前半に里見義通が、南房総市に所在する岡本城跡は16世紀後半に里見義頼が居城とした。今回、岡本城跡のうち湊として機能したと推定される入江の南端域の平坦部568.51㎡を追加指定する。

養老川流域田淵の地磁気逆転地層の 国天然記念物指定について

国の文化審議会は、平成30年6月15日（金）に、「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」（市原市）を天然記念物に指定することを答申しました。

養老川流域田淵の地磁気逆転地層が天然記念物に指定されると・・・

- 千葉県内では特別天然記念物を含めて18件目
- 地質・鉱物分野では4件目

天然記念物に指定された理由

- 第四紀前期更新世及び中期更新世の境界付近で、地磁気逆転の記録が良好に保存されている。
- 約77万年前に古期御嶽山の噴火により飛来・堆積した火山灰が、地磁気逆転境界付近に堆積しており、年代を特定できる。
- 一連の地層が露頭壁面に現れ、視覚的に確認できる。
- 陸海両方の化石が産出し、環境の変化を知ることができる。



A: 白尾火山灰層 (Byk-E) (約77万年前)
B: 中期更新世の地層 (Byk-Eより上層 認定されればこの年代がチバニアンと命名される)
C: 前期更新世の地層 (Byk-Eより下層)

養老川流域の露頭壁面



養老川河床にみられる生痕化石と貝化石

第四系/紀	完新統/世	上部/後期	チバニアンに?
	更新統/世	中部/中期	
		カラブリアン	
		ジェラシアン	
新第三系/紀	鮮新統/世	ピアセンジアン	
		ザンクリアン	
	中新統/世	メッシニアン	
		トートニアン	
		サーラバリアン	
		ランギアン	
		パーディガリアン	
アキタニアン			

地質年代表

南房総市岡本城跡の国史跡追加指定について

国の文化審議会は、平成30年6月15日（金）に、史跡「里見氏城跡 稲村城跡 岡本城跡」（館山市・南房総市）のうち岡本城跡の一部を、史跡に追加指定することを答申しました。

史跡里見氏城跡 稲村城跡 岡本城跡とは・・・

- 房総半島南部を治めた、戦国大名里見氏の拠点となった城跡群。
- 館山市稲村城跡は16世紀前半に里見義通が、南房総市岡本城跡は16世紀後半に里見義頼が居城とした。
- 平成24年1月24日、千葉県内で27件目の史跡指定。
平成25年1月30日
平成27年3月10日追加指定



岡本城跡全景（西から）

今回の史跡追加指定

- 岡本城跡のうち、湊として機能したと推定される、入江の南端域の平坦部を追加指定する。（写真右端の、アパート付近背後の平坦地）



岡本城跡外郭部北端切岸（既指定地）



（参考）稲村城跡全景